

デジタル書誌学の諸課題

Some Thoughts on "Digital Bibliography"

久須美雅昭

はじめに

①問題の所在

②書誌学の定義

③デジタル資料の定義

④デジタル・メディアをめぐって

⑤映像書誌学

⑥データベースをめぐって

おわりに

【論文要旨】

研究資料のデジタル化は、とりわけ人文系研究の領域において、新たな方法論の開拓や、これまでにない共同研究スタイルの確立などにつながる大きな可能性を秘めている。その反面、デジタル資料への依存は原本の喪失という危険な側面も併せ持っている。デジタルであることはすなわち、デジタルを解読するハードウェア、ソフトウェアに依存することであり、このようなハード、ソフトは市場の原理で極めて移ろい易いものだからである。

まさに資料デジタル化を始めた世代の責任として、1000年先の世代に研究資料を引き継ぐという観点からデジタル資料の特質を理解し、その妥当な扱い方を検討する必要がある。

それには文書資料における書誌学を下敷きにすることが有効であろう。ここでは、仮にそれをデジタル書誌学と名づけ、デジタル資料の多面的な定義、あるいはハード、ソフトへの依存性を考察する。

また、動画映像資料のデジタル化に先立つべき、映像書誌学の必要性にもふれる。

最後に、デジタル化の実作業の場としてのデータベースについてトヨタ財團の例に基づき考察し、デジタル資料の扱いにかかる様々なヒューマン・エラーの可能性を明らかにする。また、データベースの延長上にWEBアーカイビングと呼ばれる最近のデジタル資料生成の方向性も検討する。

付録として、筆者が開発した画像データベース構築のためのツールについて紹介する。